

令和 7 年 3 月 4 日

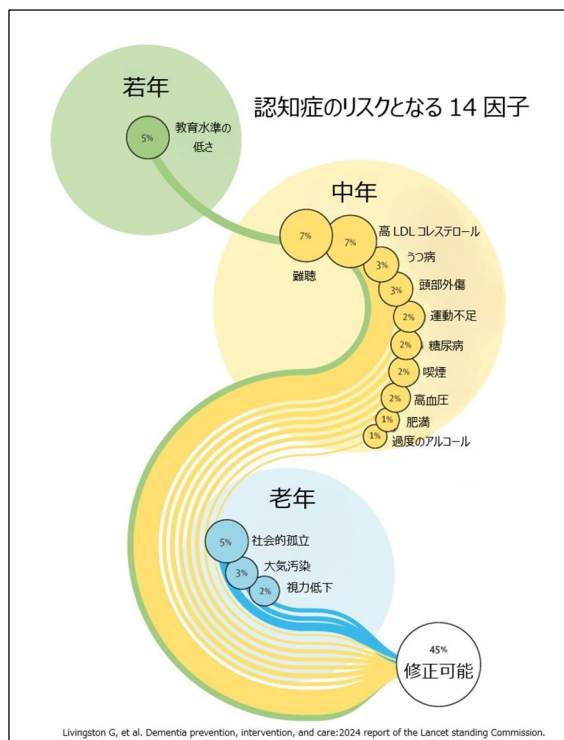
演題名:『認知症の予防はできるのか、MCI を見逃さない』

徳島大学大学院医歯薬学研究部 教授 白山 靖彦

本講演では、『認知症の予防はできるのか、MCI を見逃さない』をテーマに、認知症予防の潜在的因子、その前段階に位置する MCI(軽度認知障害)の早期発見・介入の重要性について論じます。認知症は高齢化が進む現代社会において、個人のみならず社会全体に多大な影響を及ぼす疾患です。最近では、認知症基本法も制定され、新しい認知症観も提唱されています。発症メカニズムやリスク因子に関する研究は進んでいるものの、未だ確実な予防法や治療法が確立されていないのが現状です。特に、正常な老化と認知症の中間領域に位置する MCI (軽度認知障害:Mild Cognitive Impairment)は、症状が軽微なため診断が遅れがちであり、その結果、予防のチャンスが失われるケースが多く見受けられます。

MCI は、認知機能が年齢相応より低下しているものの、日常生活には大きな支障をきたしていない状態を指します。認知症の前段階と考えられることが多く、特にアルツハイマー型認知症に進行するリスクが高いとされています。

以下の図は、認知症のリスクとなる 14 の潜在的因子を示したものです。



この図から分かるように、認知症のリスク因子には、若年期、中年期、老年期といったライフステージごとに異なる要因が存在します。

このように、認知症の 45%は修正可能なリスク因子によるものであり、適切な介入を行うことで発症リスクを低減できる可能性があります。

これからは、専門家のみならず一般市民にも理解しやすい形で、認知症予防の可能性とその課題を広く情報提供し、今後の対策推進の一助となることを目指すことが見求められています。

最後に、認知症は誰でもなる可能性がある疾患です。その時に備え、住み慣れた地域で住み続けられる地域にしていけることを共に取り組んでいきたいと考えています。